

新たな身体の哲学の構築に向けて

—メルロ＝ポンティ生誕100年に際して—

2008年11月22日(土) 23日(日)

立教大学池袋キャンパス 12号館 第1・2会議室

11月22日(土)

歴史と自然のキアスムとしての身体

10:00~13:00

シンポジウム1「自然と身体」

司会 加賀野井秀一(中央大学)

加國尚志(立命館大学)

「表象の彼方の身体——メルロ＝ポンティにおける身体と絵画の理論」

E・ドゥ・サントベール(フランス国立科学センター、パリ高等師範学校、フッサール文庫)

「『肉は鏡の現象である』——誤解されている命題の出典と意味」

劉國英(香港中文大学)

「フッサールの影に対峙するメルロ＝ポンティとフランク」

11月23日(日)

知覚する身体の広がり

10:00~13:00

シンポジウム3「ケアする身体」

司会 嘉指信雄(神戸大学)

J・コール(ボーンマス大学)

「変異した身体性——神経学的障害とメルロ＝ポンティ」

G・ワイス(ジョージ・ワシントン大学)

「障害と加齢の「正常な異常性」——メルロ＝ポンティとポーヴォワール」

西村ユミ(大阪大学)

「看護師の身体と経験の現象学——永続的植物状態患者との相互作用を通じたコミュニケーションの可能性」

河野哲也(立教大学)

「憑依(私における他者の身体化)と道徳性」

15:00~18:00

シンポジウム2「歴史と身体」

司会 増田一夫(東京大学)

廣瀬浩司(筑波大学)

「身体の歴史的制度化」

M・カルボーネ(ミラノ大学)

「野生になるには多くの時間が必要だ——メルロ＝ポンティによる
ゴーギャン、ゴーギャンによるメルロ＝ポンティ」

松葉祥一(神戸市看護大学)

「身体、コミュニオン、コミュニティ」

J・ロゴザンスキー(ストラスブール大学)

「キアスムと可逆性」

15:00~18:00

シンポジウム4「拡張する身体」

司会 村田純一(東京大学)

S・ギャラガー(セントラルフロリダ大学、ハートフォードシャー大学)

「間身体性と間主観性——メルロ＝ポンティと「心の理論」説の批判」

M・ツァキリス(ロンドン・ロイヤル・ホロウェイ大学)

「身体性の神経現象学——行為者性と身体所有性の間の相互作用」

岡田美智男(豊橋技術科学大学)

「人間-ロボットの相互作用とコミュニケーションにおける身体性」

長滝祥司(中京大学)

「心、身体性、二人称の観点」

参加無料

シンポジウム1、2の使用言語はフランス語

シンポジウム3、4の使用言語は英語

発表原稿(原語)もしくはレジュメの日本語訳を配布、ディスカッションは大意を通訳